

介護職の魅力 高校生に届け

職員ら 鶴来高を訪問

介護分野で深刻になっている人手不足の解消につなげるため、白山市の鶴来高校で19日、同校の生徒と、介護を学ぶ大学生や若手介護職員との交流会が開かれた。職員らは介護のやりがいや資格の取得方法などを伝え、介護職の魅力をアピールした。

(中尾真菜)

介護職の魅力を高校生に伝え、将来の進路選択の一つにしておらうと市が主催。介護や福祉を学ぶ金城大社会福祉学科の4年生3人と、同市一塚町の特別養護老人ホーム(特養)つるべ荘で働く介護職員2人が同校を訪ね、社会福祉の授業を選択する2年生10人と交流した。

同大の学生は、福祉制度の知識を得る座学や介護技術を習得する実習など、大学での学びを紹介した。実際の施設での実習については「状況に応じて臨機応変に対応し、他職種の意見を取り入れた支援が必要だと感じた」と伝えた。

生徒「現場の気持ち、思いやりわかった」

特養の職員は「利用者の喜ぶ顔を見るとやりがいを感ず、元気をもらえる」「喜びや悲しみを一緒に感じることで入居者との信頼関係が深まる」などと仕事のやりがいを熱弁。福祉用具や介護ロボットを用いて職員の身体的負担の軽減に取り組んでいることも紹介した。

市職員も高齢化の進行や福祉ニーズの増加により、介護や福祉に携わる人材の必要性が高まっていることを解説。担い手の確保に向けて、県社会福祉協議会による就学資金の貸与制度や、介護職員の定着を目指した市独自の支援金交付制度があることも伝えた。

生徒たちは、資格取得の難しさや勉強方法、特養で実施する行事の内容などを尋ね、介護現場で働くイメージを深めていた。

同校の浅香咲憐さん(17)は「これまで授業で学んだこと以上に介護のことを知ることができ、現場の方の気持ちや思いやりの考えがわかった」と話した。



現役職員や大学生から介護職の魅力を聞く高校生たち＝白山市の鶴来高で

喜ぶ顔 やりがい

補助ロボットいるよ